

若い女性はもちろん、中高年も「美魔女」に変身！
東京・日比谷シャンテなどの4店舗を拠点に、
老人ホームや東北の被災地などでも出張サービスを行う。
写真の力を信じ、「夢と感動を届ける」がモットー。
ユーモアと思いやりにあふれる、女性起業家の素顔に迫る。

訪れたのは、千葉市内にある閑静な老人ホーム。緑豊かな敷地内に、ピンクの派手なワンボックスカーが1台。なにやら、場違いな感じに止まっている。
「今日は、誕生日を迎えた入居者さんをはじめ、4人の方が変身するんです」
そう話すのは、この車の持ち主、メイク＆フォトスタジオ「オプシス」の代表取締役を務める、黒崎正子さん（53）。プロのメイクと撮影技術で「奇跡の一枚」を

生み出すと、評判の写真スタジオだ。
「出張サービスを始めたのはかれこれ6、7年前です。女性はいくつになっても変身願望があるもの。ご高齢の方やお身体が不自由でお店に来られないお客さまにも、変身を楽しんでいただくため」
とはいえ、今回の参加者は80代から90代のお年寄り。特

設のメイク室に入る姿も、お嫁さんに身体を支えられたり、車イスを押しもらったり。背中が曲がり、失礼ながら、年齢相応のご老人、という印象だ。
はたして「変身」できるのか、半信半疑だった。
ところが待つこと1時間。



変身願望をかなえ、とびっきりの「キレイ」をプロデュース。右の女性は驚くなけれ、50歳です！



プロのヘア&メイク術が「きれいに撮られたらいいな」という願いをバックアップ。衣装は一枚の布地を巧みに纏り込んで、華麗なドレス風の胸元に



一枚の「奇跡」がある。

プロのメイクを終えて、登場した姿に、息をのんだ。「じゃ、じゃっ!?」
完璧なメイクが施された姿は、まるで「美魔女」。マイナス20歳（いや、30歳！）に大変身しているではないか！



撮影が始まると、さらに驚いた。「キレイですね。写真は好きですか？ カメラマンが優しく声をかけると、「嫌いよ、写真なんか」と、憎まれ口をききながらも、あごに指を添えたり、首を傾げたり、お気に入りのポーズをとる「美魔女」たち。
そう、気分はずっぴかり女優。曲がっていた背中も、いつしか伸びているではないか。今回、変身フォトを依頼した介護つき老人ホーム「季美の都ちば」会長・田畑じゅりさん（65）が、撮影を見守りながら、ほがらかに話す。

「美しく変身することで、昔の自分を思い出せるんですね。気持ち華やかぐから、心も変化するよ」
うで、いつもは夜間に20回もコールする入居者さんが、この催しに参加した日は1度もコールしなかったりと。黒崎さんたちが心を込めて撮影会をしてくださるので、折にふれ来ていただいています」
撮影を終えた「美魔女」たちも、ご満悦の様子。
「なんだか、フワッとした気分よ」と、この日、94歳の誕生日を迎えた小林文子さんが言え、（衣装が）ピンクでよかったわ。来年は何色にしようかしら」と、すでに次回に思いをはせている宮崎律子さん（88）。
オプシスの老人ホームへの出張サービスは、メイクも撮影も本格的なのに、料金

メイク＆フォトスタジオ「オプシス」代表
黒崎正子さん 53

「奇跡」の一枚がある。 ドラマ

金は通常の店舗撮影より割安で、1人5000円程度。
「採算度外視なのは、将来的に老人福祉事業に参入することですが、何より1人でも多くの方に、夢と感動を届ける。それが、私たちの使命だと思っています」
◇
◇
オプシスのフォトスタジオは、日比谷シャンテ、ブランド銀座、大丸東京、阪急17番街と、東京・大阪の大手デパートやファッションビルに、4店舗入っている。
◇
◇
フォトスタジオというと敷居が高いイメージだが、オプシスは入りやすい雰囲気だ。日比谷本店を例にとると、



出張サービス用のハイエース。撮影照明機材、メイク道具、変身用の生地を積み込み、どこへでも行く

人あひこむきょめいし
題字・永六輔

日比谷本店にて、明るい照明の店内は美しい変身へのステージのよう